

【研究論文】

萱野茂二風谷アイヌ資料館翻訳プロジェクト

—地域の先住民観光に地元の短大生が
関わる取組みのあり方の研究—

田中 直子

短期大学部准教授

コッター・マシュー

短期大学部准教授

研究論文

萱野茂二風谷アイヌ資料館翻訳プロジェクト ——地域の先住民観光に地元の短大生が関わる取組みのあり方の研究——

田 中 直 子 コッター マシュー
Naoko TANAKA Matthew COTTER

目次

1. はじめに
2. 先行研究
- 2.1 国際観光における文化的観光の潮流と北海道の文化的観光
- 2.2 先住民研究とツーリズム
- 2.3 大学生や短大生の観光に関する課外活動の有効性
- 2.4 観光地の多言語化
3. 本研究の目的
4. 調査方法
- 4.1 研究協力者
- 4.2 事前準備, バスツアー, 翻訳活動
- 4.3 アンケート調査
5. 結果と考察
- 5.1 リッカート尺度の質問の回答
- 5.2 活動の利点に関する記述
- 5.3 実施方法の改善点に関する記述
6. まとめ
7. 研究の制約と今後の課題

[Abstract]

Translation Project of the Shigeru Kayano Nibutani Ainu Museum: Investigating Methods for Involving Junior College Students in Local Indigenous Tourism

Although inbound tourism is resurging in Japan after the COVID-19 crisis, local tourist operators and systems are relatively struggling to cope with the demand. As opposed to mass tourism, an increasing number of travelers are opting for adventure travel, which combines two of three elements, namely, activity, nature, and cross-cultural experience. This study investigates the viability of using university students to provide translation support for a local indigenous facility, while learning about the language and culture. The results revealed that the benefits for students ranged from gaining practical out-of-the-classroom language utilization to knowledge of the local indigenous group. Moreover, the facility received accurate English translations for exhibits at no cost. Various approaches for improving this process included allocating more time for group-based translation tasks and experiencing positive models of successfully translated exhibits prior to beginning their own translations.

1. はじめに

日本は2003年に Visit Japan Campaign を開始し、2007年には観光立国推進基本法が施行され、以降観光立国を目指した様々な施策と地域における取組みがなされてきた。世界的な国際旅行の拡大もあり、2019年には訪日外国人旅行者数が3千万人を超え、新型コロナウイルス感染症拡大以前は、日本のインバウンドは堅調な拡大を続けてきた。コロナ後

の現在は、2023年6月の訪日外国人旅行者数は推計で200万人を超えており、インバウンド客が日本へ戻りつつある状況と言える。

一方、訪日外国人旅行者数の増加に伴いマストツーリズム型観光の拡大に起因するオーバーツーリズムへの対応も喫緊の課題となっている。こうした中、日本国内では広くアドベンチャートラベル(AT)への注目が増している。ATとは一般的に「アクティビティ」「自然」「異文化体験」の3つの要素のうち、2つ以上

キーワード：観光の多言語化, ボランティア, 先住民観光, 翻訳, 文化的観光

Key words: multilingualization of tourism; volunteering; indigenous tourism; translation; cultural tourism

を組み合わせた旅行形態と定義される。また、AT を推進する世界最大組織のアドベンチャー・トラベル・トレード・アソシエーションは「今までにないユニークな体験」「自己変革」「健康であること」「挑戦」「ローインパクト」の5つの体験価値を提唱している。AT 旅行者は、他の目的の旅行者に比べ、滞在期間が長く、環境意識が高く、滞在中の消費額も高い傾向にあるとされており、マストツーリズムと異なり受入側の持続可能な観光発展の視点からも高い期待が寄せられている。一方、日本における AT、そこに含まれる文化的な観光の現状に対し、日本国内では次のような課題が指摘されている（観光庁，2021）。

- ・日本の AT 市場は未開拓であり、海外での認知度も低い。
- ・欧米、特に欧州の旅行市場の約半数は既に「エデュケーテッド・トラベラー」と「スペシャル・インタレスト・ハンター」だが、日本の観光業はこの層にアプローチできていない。
- ・今後はアジアの旅行者も、旅行経験・文化が成熟し「AT 型」への移行が想定される。

2. 先行研究

2.1 国際観光における文化的観光の潮流と北海道の文化的観光

世界的な国際観光のトレンドにおいては、近年特に欧米の旅行者を中心に文化的観光を目的とする旅行が増えており、国際観光全体の40%とも言われている。ゆえに近年の文化的観光の研究は多岐に渡る。旅行者側の文化的観光体験の評価（Seyfi 他，2020）や、文化的観光地のあるコミュニティへの影響（Purta 他，2021）、地域観光の持続的発展や再生型観光の視点（Souca, 2019；Lak 他，2019）などマーケティング、環境保全、マネジメントなどの異なる視点から研究がなされている。

北海道の文化的観光においては、特にその柱となるアイヌ文化と縄文遺跡という魅力的なコンテンツがある。2020年に国立アイヌ民族博物館ウポポイが開業し、2021年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコにより世界文化遺産に登録されている。公益社団法人北海道観光振興機構による調査（2017）は、北海道におけるグローバルレベルの3大観光資源のひとつにアイヌ文化をあげており、特に欧米からの旅行者は歴史や文化に興味があるという特徴を指摘している。また、訪日目的と来道目的の調査結果からは、日本を訪れる欧米人観光客の主な目的は「名所・旧跡を訪れる」「伝統的な歴史・文化体験」「食事・料理」が中心であるのに対し、北海道を訪れる欧米人観光客の来道動機では「自然景観」「温泉」といった項目中心という差異が見られた。このことから、北海道の文化的観光の魅力はまだ広く知られておらず、将来的なポテンシャルがあると考えられる。

2.2 先住民研究とツーリズム

文化的観光の1つのカテゴリーとしてしばしば見られるのが、先住民ツーリズムである。最近ではよく使われる言葉だが、この概念は新しいものではない。先住民ツーリズムは、先住民やその文化、ライフスタイルから、自分たちとは異なる文化を見たり、学んだり、体験したりすることに興味を持つ他文化の人々を長い間惹きつけてきた。歴史的にみると、先住民ツーリズムは、単に先住民が住む地域を訪れたり、先住民のパフォーマンスを鑑賞したりするものであったかもしれないが、現代では、より本物の体験を提供しようとするものへと変容しつつある。例えば、ツアーガイド自身が先住民であるツアーや、文化体験（料理や手工芸品作り）、パフォーマンスへの参加など、よりインタラクティブな体験を提供する博物館などの施設があげられる。エコツーリズムと混同されることはな

いが、両者はしばしば絡み合っており、先住民ツーリズムには、野外ハイキングや先住民族にとって重要な自然の中の場所を訪れることも含まれる。先住民ツーリズムは、すべての利害関係者の立場、意見、権利を考慮する必要があり、非常に入り組んだ複雑なテーマである。しかし本稿においてはスペースの制限から、先住民ツーリズムの利点と問題点を下記に箇条書きで紹介することとする。

利点

- ・先住民自身がプロセスに参加することで、文化の活性化を支援する。
- ・先住民が自分たちの文化を学び、教え、共有できる場を提供する (Jennings, 2017)。
- ・国内外での異文化接触による共感と理解の機会
- ・先住民のアイデンティティに対する誇りと自信を育む。
- ・先住民の雇用機会の増加
- ・経済的、政治的成長と自立の可能性

問題点

- ・すべての利害関係者によって平等が確保されない場合、差別の対象となる可能性がある。
- ・博物館などの施設における劇の上演がなされ、先住民が実際の習慣とは異なる特定の行動を取らざるを得なくなる可能性がある (Hunter, 2014)。
- ・先住民に関連する展示はあるが、先住民と来園者の実際の交流はない
- ・観光客が訪れる可能性のある神聖な場所への悪影響

これらすべての賛否両論を考慮すると、先住民ツーリズムの真の価値を全関係者に対して天秤にかけることは難しい。しかし、明らかなことは、先住民自らが観光施設を所有し管理する力を持つ必要があるということである (Markwick, 2001)。

2.3 大学生や短大生の観光に関連する課外活動の有効性

大学生が教室外で実際に英語を使用し、ボランティアの観光ガイドを行った取り組みとその効果を論じた研究は複数見られる。田中他 (2020) は、札幌市内の観光地で、短大生が英語の有資格ガイドから小グループで英語でのガイディングを受けて、自分自身がゲストとして英語でガイドされる経験をした後、同じ観光地で自分たちが外国人に英語でガイディングを行うという実践的なガイドトレーニングの取り組みを報告している。その効果の一部として、学生の英語学習へのモチベーションの向上を指摘している。

中山他 (2018) は2つの大学の学生を対象とした英語ツアーガイドボランティアプロジェクトを報告している。参加学生はガイドに必要な英語と関連する観光スポットに関する講義を受講し、授業内でのプレゼンテーションや現地での研修を通して練習した後、松山で開催された国際イベントのオプションツアーでのボランティアガイドを行った。その結果として、地元の観光産業における人材育成の可能性と、参加学生が学習者としてではなく、英語を使用するスピーカーとして話す機会が得られたことを指摘している。

山田他 (2009) は、長崎県の大学における地域限定通訳案内士教育に適した大学カリキュラム作成の研究を報じている。同研究の一貫として学生が授業において英語でガイディングを学び、長崎県島原市でのガイド研修に参加した後、観光船の歓迎イベントで英語ガイドのボランティアを行った結果、ガイディングの機会は、参加学生の英語学習意欲の向上、実践的な職業体験ができるという側面があり、地域にとっては観光サービスの質の向上につながる可能性を論じている。

磯野 (2018) は東京都渋谷区における若者による訪日外国人旅行者に対する観光ボランティアガイド活動について取り上げている。

活動参加者の属性は30歳未満の社会人ないし大学生で、月に1度以上活動に参加しており、国際協力や英米文学、英語を必要とする専門分野を学んでおり、将来的に留学を考えている参加者も多い。その有効性として語学力向上を目指す若者にとって、外国人旅行者への観光ボランティアガイド活動は実践的に英語を学ぶためのよい機会であると述べている。

一方、学生による観光施設の展示や案内物の翻訳の活動を論じる研究は、日本ではまだあまり見られない。

2.4 観光地の多言語化

2003年の観光立国宣言以降、日本国内の観光施設では多言語対応が進められてきた。特に、2014年に観光庁から示された「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(観光庁, 2014)は外国人の視点からの多言語表記の重要性を指摘し、英語を基本とした外国標記の具体的なガイドラインを示している。インバウンドの観光促進目的の一つは、訪日外国人旅行者に日本を理解し親しみを持ってもらうことでもあり、特に中国、韓国、台湾と言った東アジア諸国からの旅行者が多数である現状に対し、公共交通機関や、観光関係施設の標識や案内掲示では、日本語、英語、中国語、韓国語の4言語での表示が一般化してきた(丁, 2020)。

歴史的遺構や自然、特に国立公園などの自然環境に関わるガイディングを含めた情報伝達については、米国を発祥とするインタープリテーションという概念がある。インタープリテーションは「環境保全地域や公園、博物館など、社会教育の場における持続可能な社会づくりのための教育的コミュニケーション」と認識されており、こうした活動は20世紀初頭に米国の国立公園において始まった。日本においては1980年代から導入されはじめ、現在では自然公園のほか動物園や水族館、博物館等の社会教育施設などでも行われている。

英語圏では「環境保全地域や公園、博物館などにおける解説活動」を「Interpretation」と呼び、またその解説者は「Interpreter」と呼ばれ、専門家としての職能が確立しているとの認識がある(西村, 2016)。多様な学問領域にまたがるアイヌ文化、縄文遺跡文化の観光においては、専門性の高いインタープリテーションが重要であると言えるが、ゲストとホストの両者における観光としての情報伝達の視点での研究はまだ多くはない。

訪日外国人旅行者の調査においては、旅行者が感じる「言葉の壁」の問題は「取組むべき課題」として継続的に指摘されてきた(観光庁, 2019)。本稿で論じる「萱野茂二風谷アイヌ資料館」も素晴らしい展示物の所蔵がある一方、英語を含む多言語表記は未整備であり、外国人旅行者における資料館の理解促進のためには、多言語表記が望まれる状況であった。

3. 本研究の目的

本研究は先住民族であるアイヌ民族の文化的観光施設展示物の説明を日本語から英語に翻訳する活動に参加した学生に、活動を振り返るアンケート調査を実施し、活動に対する意見を調査することで、将来的な同様の活動のあり方を検討するものである。

4. 調査方法

4.1 研究協力者

本プロジェクトに参加した学生は全て北星学園大学短期大学部英文学科に在籍する2年生(n=10)の学生であった。活動参加は任意であり、事前説明会で活動概要とその意義についての説明を受け、参加を申込んだ。参加学生は2年次選択科目である下記の5科目のいずれかを履修していた(複数の科目を履修していた学生が多い)。参加学生の英語レベ

ルはおおよそ CEFR の A2から B1, 英検2級から準1級レベルであった。

- ・アイヌとマオリ研究
- ・異文化理解 I & II
- ・Tour Guiding & Interpreting
- ・通訳法 I

4.2 事前準備, バスツアー, 翻訳活動

4.2.1 事前準備の打合せ

年月日: 2022年11月9日 (水)

昼休み約40分間

本プロジェクトの内容, 意義, 参加者の活動予定等を説明。参加者は活動内容を理解した上で, 任意で参加を決定した。

4.2.2 バスツアー

年月日: 2022年11月20日 (日)

参加者: 短大英文学科2年生10名, 教員3名,
ツアー補助2名, 英語通訳案内士1名
移動手段: チャーターした観光バスで移動
バス車内: 通訳案内士や教員から, アイヌ民族の歴史や文化, ウポボイ概要の説明を受けた。



写真1 萱野茂二風谷アイヌ資料館でのデータ収集

4.2.3 翻訳活動および打合せ

第1回

年月日: 2022年11月30日 (水)

昼休み約40分間

概要: 前半は今後の翻訳作業の具体的な進め方の説明し, 後半は翻訳を担当するグループに分かれて作業の分担。

第2回

年月日: 2022年12月14日 (水)

昼休み約40分間

概要: グループごとの翻訳締切日として設定。進捗状況の確認後, 他のグループと翻訳を交換し, 互いの翻訳をチェックするやり方を説明。

第3回

年月日: 2022年12月21日 (水)

※対面集合なし

概要: 他グループの翻訳チェックの締切日。元の担当グループは, 他グループからのコメントを考慮して修正。

第4回

年月日: 2023年1月11日 (水)

昼休み約40分間

概要: 翻訳活動の最終確認。活動に遅れや問題のある箇所, 担当者との情報共有。対応方法確認。

表1 「訪問先と活動内容」

訪問先	活動
ウポボイ国立民族博物館	多言語表記について学び、翻訳の参考用に、展示物とその説明などの写真を撮影した
二風谷工芸館	(関根夫妻より) アイヌ文化と伝統について、とくにアイヌ刺繍について説明を受けた
萱野茂二風谷アイヌ資料館	学生は2~3名のグループに分かれて、資料館内の展示物とその日本語説明の写真を撮影し、翻訳のためのデータを収集した(写真1)

4. 2. 4 翻訳活動

翻訳作業は4グループに分かれて担当する場所を分担し作業を進めた(表2)。

表2「翻訳グループと担当箇所」

グループ番号と人数	担当箇所
1 (2名)	資料館1階 入口より右側
2 (2名)	資料館1階 入口より左側
3 (3名)	資料館1階 奥と別室
4 (3名)	資料館2階

グーグルスプレッドシートをプロジェクト参加者全員で共有し、グループに分かれて担当箇所の翻訳作業を進めた。資料館で担当する展示物とその日本語説明を写真に撮影しており、それらをつつ同スプレッドシートにアップし、その後担当学生が翻訳を入力し、疑問点や問題点があればコメントも残した。また、疑問点などは教員に相談することも可能とした。各グループの担当する翻訳作業終了後、異なるグループの学生が他のグループの翻訳を確認し、加筆修正の助言や、疑問点への返答を行い、その後、再度元の担当グループが別グループによる助言等を参考に翻訳を修正した。その後、教員二名が学生による翻訳を確認、必要があれば加筆修正を加え、翻訳作業を完成させた(翻訳作業の進め方の例は表3)。

表3「翻訳作業の進め方の例」

	<p>コンチ <帽子> 狩に行く時にかぶります。ふさの付いているのは妻帯者。妻に先立たれた人は、そのふさを一緒に埋葬しますので、見ただけで、お嫁さんがいるかいないかわかります。</p>
<p><u>First Draft</u> konchi <hat> Wear when going hunting. Those with tufts are wives. Widowed widows bury their wives together, so you can tell if they have wives just by looking at them.</p>	<p><u>Group Check</u> konchi <hat> We wear when going hunting. Those with tufts means they have wives. Widowed widows bury their wives together, so you can tell if they have wives just by looking at them.</p>
<p><u>Teacher Check</u> konchi <hat> We wear this hat when going hunting. Those with tufts are men who are married. Widower would bury their dead wives with these tufts, so you can tell if the man has a wife or not from his appearance.</p>	<p><u>Native Check</u> Konchi <hat> This hat was worn when going hunting. The hats with tufts showed that the hunter was married. Just by looking at the hunter's hat one could tell if the hunter was married or not. When a hunter lost his wife, he would bury these tufts with her.</p>

4. 3 アンケート調査

バスツアーの事前事後にオンラインアンケート調査を実施した。本学のLMSであるムードルのアンケート機能を活用した。本稿では特に自由記述欄のコメントを2名の著者(教員)で読み込み、重要な要素を洗い出した。事前アンケートは10問、事後アンケートは15問、それぞれに自由記述欄を設けた(アンケート調査質問項目は付録参照)。

5. 結果と考察

本稿では「翻訳活動」と「活動全体の実施のあり方」に関するアンケート調査の質問と回答データ、およびその考察について論じる。

5. 1 リッカート尺度の質問の回答

事後アンケート調査の質問7「アイヌに関する情報を翻訳することで、アイヌについての理解を深めることができました」への回答データには「とてもそう思う」70% (7名), 「そう思う」30% (3名)という結果であった。本翻訳作業を通じて、学生のアイヌ文化に対する理解は深まった参加者が多かったと言える。

る。(表4)

表4「アンケート調査質問7」

Translating information about Ainu things helped me understand more about Ainu.			
アイヌに関する情報を翻訳することで、アイヌについて理解を深めることができました。			
Response	Average	Total	
Strongly Agree とても思う	<div><div></div></div> 70%	7	
Agree そう思う	<div><div></div></div> 30%	3	
Total responses to question		100%	10/10

5.2 活動の利点に関する記述

ここからは事後アンケート調査の自由記述型の質問への回答について論じる。

活動を通じて有益であった点、良かった点を述べた記述は以下の通りであった。

「同じグループの2人も、積極的に翻訳作業をしてくれ、他グループのメンバーも真剣に私の翻訳をチェックしてくれたので、アイヌ文化の理解を深めると同時に英語スキルが上がったと感じます。」

「翻訳作業は以前から挑戦してみたいと思っていましたが、実際にやってみると、英語に直すのが難しい日本語が出てきたり、長い文章を翻訳するのには苦労しました。大変な作業もありましたが、その分最後まで翻訳できた時の達成感は大きかったし、作業を通して新しい単語や表現方法を見つけることができたので、とても良い経験になりました。」

グループワークで行ったことへの肯定的な意見と、グループでの翻訳作業を行った経験に対する肯定的な意見である。参加学生は英語専攻であり、任意で本活動に参加している

ため、もともと英語への翻訳作業に興味あったことが考えられるが、英訳の活動と英語学習への関連、達成感が得られたと考えられる。先行研究にあげた大学生のボランティアガイドの取組み(田中他, 2020; 中山他, 2018; 山田他, 2009)は、翻訳ではなく、口頭での英語使用、通訳経験ではあるが、教室外での実践的な英語使用の機会が、英語学習への動機づけにつながるといふ指摘と重なると言えるだろう。

5.3 実施方法の改善点に関する記述

プロジェクト全体や一部について改善できる点を述べた記述は以下の通りであった。

- ・バスツアー行程(訪問先の順序)についての意見

「資料館に行き、自分が何を翻訳するのかを知った上でウポポイに行く方が、自分の分からないことを調べることが出来て良いと思う。」

「最初に二部谷アイヌ資料館の方に行ってグループごとに写真を撮ってから、アイヌ民族文化共生空間(ウポポイ)に行って、その翻訳を参考にして翻訳作業に取り掛かるべきだった。その方がもっと効率良く作業が出来たのではないかと思います。」

- ・展示物の写真が不鮮明な場合の、再確認できる手段の必要性

「写真を撮って帰ってきたあと、翻訳作業をした時に写真がうまく撮れていなかったり、日本語だけでも理解(解釈)しづらい文章があったりしたので、それを再度確認できるような時間があればいいなと思いました」

- ・グループでのより長い翻訳時間の必要性、

グループ内での連携の必要性

「翻訳に当たって、もっとグループごとで話す時間が必要だった。」

「進行状況をグループ内でもっと確認すればよかった。」

「グループ間で作業量の差があったように思えるので、振り分けする際にも少し話し合いが合ったらよかったかなと思います。」

・ 予定表の必要性

「最初に全てのスケジュールを立てて、予定表を配った方がいいのかもしれないです。」

・ 活動の広報

「私たちが体験したことをもっと他の生徒が知る機会があれば、次の参加者はもっと増えると思う。」

2名の参加者から「訪問順序の変更」への意見が出ていた。この指摘は実際に展示物の英訳に取り組んだ者が感じた重要な意見と思われる。訪問する順番として、先に実際に翻訳をする資料館に行き、展示物を観察して写真撮影などを行ったのちに、英訳の参考となる展示物の説明のあるウポポイを訪問すれば、参考にすべき展示物を的確に見つけて説明文の写真撮影や説明の情報を収集できただろう。また、グループでの翻訳の段取りや作業について相談する時間、翻訳作業そのものの時間もより長い時間を設定することへの要望も重要なフィードバックである。さらに、打合せの日程などは事前に参加者へ情報共有をしていたものの、LINE 等による簡易な連絡

のみであったため、作業方法も含めた活動の全体像を把握しやすくするためには、スケジュールも含めた「活動予定表」のようなものの作成、配付が望ましいと言えるだろう。

6. まとめ

北海道のアイヌの文化的観光施設には、まだ英語を含む多言語での説明が未整備の施設が多く、今後の文化的観光の成長を考慮すれば、多言語対応の促進が求められると言える。本稿のように、地元の大学生や短大生がその語学力を観光の分野に活かす取り組みは、学習者である学生にとっては、教室で学んでいることを、実社会に応用し役立てる貴重な機会と呼べるだろう。また、観光施設を運営する側にとっては、正確な展示物の英語訳を用意することは大きな負担となる可能性があり、無料の翻訳ソフトなどを使用すると、その精度が保証できず、また翻訳作業を依頼する場合は費用が高額になる懸念もあるだろう。本プロジェクトのような取り組みは双方にとって有益な点が多々あるだろう。このため、今後は本稿で明らかとなったプロジェクト改善の可能性を考慮し、こうした活動のよりよいあり方を検討していくことが重要と考える。

7. 研究の制約と今後の課題

この研究にはいくつかの制約があった。第一に参加学生数が $n=10$ と少なかったため、十分な調査結果が得られなかった可能性がある。また、特に参加学生から得たデータでも指摘されているが、すでに適切な翻訳を提供している博物館（この場合はウポポイ）を後に訪れるのがベストだっただろう。そうすることで、学生たちは、翻訳作業の対象となる博物館で、何をどのように翻訳することができるのかを、より具体的にイメージすること

ができれば。さらに、参加学生の年齢と英語のレベルを考慮すれば、グループ内で翻訳を完成させる時間をもっと多く取ることが必要だったと言える。最後に、参加者の意見に見られるように、学生が地域の先住民観光に関わり、地域の文化的観光を支援することは、学生自身と地域の両者にとってと意義深いと言えるだろう。このため今後はこうした取り組みの改善を検討しつつ継続し、論文や大学の広報などを通じて学外および地域に発信していくことも重要と考える。

謝辞

本プロジェクトは科研費「Improving Awareness Understanding of Ainu via Online Resource (20K01208)」(研究代表者コッター マシュー)の助成を受けたものである。

また、本活動の取組みにご協力くださった萱野公裕氏(萱野茂二風谷アイヌ資料館館長)、関根健司氏(平取町立教育委員会生涯学習課)、関根真紀氏(アイヌ工芸家)、遠藤昌子氏(全国通訳案内士)、本学の教職員であるカート・アッカーマン先生、畠山美保氏に感謝申し上げる

【参考文献】

磯野 巧. (2018). 「若者による訪日外国人旅行者に対する観光ボランティアガイド活動の様相－東京都渋谷区の事例－」日本地理学会発表要旨集. 公益社団法人. 日本地理学会
観光庁. (2014). 「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」
観光庁. (2019). 「『訪日外国人旅行者の受入環境整備における国内多言語対応に関するアンケート』結果」
観光庁. (2021). 新しい観光のあり方を探るアドベンチャーツーリズム本質的課題解決への事例集. <https://www.mlit.go.jp/kankoch/shisaku/kankochi/content/001465250.pdf>
公益社団法人北海道観光振興機構. (2017). 「北海道観光欧米市場誘客促進事業 マーケティング調査報告書<概要版>」. Retrieved from: <https://statistics.visit-hokkaido.jp/wp-content/>

[uploads/2022/03/%E6%AC%A7%E7%B1%B3%E5%B8%82%E5%A0%B4%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%B1%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%82%B0%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E6%A6%82%E8%A6%81%E7%89%88.pdf?version=20220302](https://statistics.visit-hokkaido.jp/wp-content/uploads/2022/03/%E6%AC%A7%E7%B1%B3%E5%B8%82%E5%A0%B4%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%B1%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%82%B0%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8%E6%A6%82%E8%A6%81%E7%89%88.pdf?version=20220302)

田中直子・森越京子・藤田玲子. (2020). 「Tour Guide-Interpreter Education from the Specific Purposes Perspective」. 大学英語教育学会(JACET)北海道支部紀要第16号.
丁仁京. (2020). 「長崎県長崎市の観光施設における多言語対応の現状 - 韓国語対応の事例を中心に -」福岡大学人文論叢 (54) 4, 1045-1071.
中山晃・寺嶋健史・川畑由美子. (2018). 「課外授業『観光英語』の開発とその実践」大学教育実践ジャーナル 第16号, 61-67.
西村仁志. (2016). 「インタープリテーション活動の新しい動向」. 同志社政策科学研究(特集号)
山田健太郎・山内ひさ子・松尾晋一・岩崎義則. (2009). 「英語通訳ガイド資格課程創設に関する基礎的研究報告その3」研究紀要 (10). 長崎県立大学, 301-304.
Hunter, W. C. (2014). 'Performing Culture at Indigenous Culture Parks in Taiwan; Using Q method to identify the performers subjectivities'. Tourism Management Vol 42, 294-305, Elsevier.
Jennings, H. (2017). Indigenous Peoples & Tourism. Tourism Concern Research Briefing. Retrieved from: <https://www.humanrights-intourism.net/sites/default/files/media/file/2020/rc025indigenous-peoples-tourism-1197.pdf>
Lak, A., Gheitsi, M. & Timothy, D. J. (2019). Urban regeneration through heritage tourism: cultural policies and strategic management. Journal of Tourism and Cultural Change 18(4).
Markwick, M. (2001). 'Postcards from Malta, Image consumption context', Annals of Tourism Research 28 (2): 417-438.
Putra, I., Adhika, I. M., & Yana, A. (2021). Reviving Cultural Tourism in Kendran Bali Indonesia: Maintaining Traditional Architecture and Developing Community-based Tourism. Civil Engineering and Architecture 9(2).
Seyfi, S., Hall, C. M., & Rasoolimanesh, S. M. (2020). Exploring Memorable Cultural

Tourism Experiences. Journal of Heritage Tourism. Vol.15(3).

Souca, M. L. (2019). Revitalizing Rural Tourism through Creative Tourism: the Role and Importance of the Local Community. MID Journal Vol.2(2)

付録

アンケート調査質問項目

自由記述箇所を除き、事前アンケート調査の質問と事後アンケート調査の質問の両方において、回答は全て下記のリッカート尺度の選択肢1-5から選ぶ形であった。

1. Strongly Agree とてもそう思う
2. Agree そう思う
3. Neutral どちらとも言えない
4. Disagree あまりそう思わない
5. Strongly Disagree 全くそう思わない

事前質問項目(1)–(10)

- (1) I like learning about other cultures.
私は他の文化について学ぶのが好きです。
- (2) I feel that my culture is a little better than other cultures.
私の文化は他の文化よりも少し優れていると感じています。
- (3) I am sensitive to those who are discriminated against.
私は差別される人々に敏感です。
- (4) Compared to other Japanese people, I feel I know many things about Ainu.
他の日本人と比較して、アイヌについて多くのことを知っていると思います。
- (5) I feel that I understand the background and history of Ainu well.
アイヌの背景と歴史をよく理解していると思う。
- (6) It is important for people who live in Hokkaido to learn about Ainu.
北海道に住む人々にとって、アイヌについて学ぶことは重要です。
- (7) It is important for all people to learn about other indigenous cultures.
すべての人々が他の先住民文化について学ぶことは重要です。
- (8) Ainu have a right for their language and

culture to survive and continue.

アイヌには、自分の言語と文化が生き残り、継続する権利があります。

- (9) The Japanese government is doing enough to help the Ainu people.
日本政府はアイヌの人々を助けるのに十分な努力をしています。
- (10) I would like to have an Ainu person as a friend.
アイヌの人を友達にしたいです。

事後質問項目(1)–(15)

- (1) I like learning about other cultures.
私は他の文化について学ぶのが好きです。
- (2) I feel that my culture is a little better than other cultures.
私の文化は他の文化よりも少し優れていると感じています。
- (3) I am sensitive to those who are discriminated against.
私は差別される人々に敏感です。
- (4) Compared to other Japanese people, I feel I know many things about Ainu.
他の日本人と比較して、アイヌについて多くのことを知っていると思います。
- (5) I feel that I understand the background and history of Ainu well.
アイヌの背景と歴史をよく理解していると思う。
- (6) It is important for people who live in Hokkaido to learn about Ainu.
北海道に住む人々にとって、アイヌについて学ぶことは重要です。
- (7) It is important for all people to learn about other indigenous cultures.
すべての人々が他の先住民文化について学ぶことは重要です。
- (8) Ainu have a right for their language and culture to survive and continue.
アイヌには、自分の言語と文化が生き残り、継続する権利があります。
- (9) The Japanese government is doing enough to help the Ainu people.
日本政府はアイヌの人々を助けるのに十分な努力をしています。
- (10) I would like to have an Ainu person as a friend.
アイヌの人を友達にしたいです。

- (11) Joining this bus tour helped me understand more about Ainu.

このバスツアーに参加して、アイヌについて理解を深めることができました。

- (12) Translating information about Ainu things helped me understand more about Ainu.

アイヌに関する情報を翻訳することで、アイヌについて理解を深めることができました。

- (13) Did you use any translation tools to help you with your translations? (eg. google translate, DeepL, weblio etc)

Please write how you used them. (eg. I translated into English first then I checked using translation tool. or I used a translation tool to translate first then I checked parts that looked strange.) Even just a little, please write something.

翻訳に役立つ翻訳ツールを使用しましたか？

(例：Google 翻訳, DeepL, weblio など)どのように翻訳ツールを使用したかを書いてください。(例：まず自分で英語に翻訳してから、翻訳ツールで確認した。まず翻訳ツールで翻訳してから、変なところを確認した)短くても良いので、何かコメントを入力してください。

- (14) Please write any comments about your experience doing this project. You can write in English or Japanese and you can write about any or all parts of the project. (eg. on the bus, Upopoy, Shigeru Kayano's museum, doing the translations etc.) Even just a little, please write something.

このプロジェクトに参加した経験について、自由にコメントを書いてください。英語または日本語で書いてください。プロジェクトの一部についてでもよいですし、全体についてでも構いません。(例：バス車内での経験, ウポポイ, 萱野茂二風谷アイヌ資料館, 翻訳作業, グループワーク, など)短くても良いので、何かコメントを入力してください。

- (15) How do you think projects like this one can be improved? You can write in Japanese or Japanese and any idea that you like. (eg. We needed more face-to-face time to translate. We should have gone to Nibutani first, then Upopoy etc.) Feel free to say anything that may make future projects like this better. Even just a little, please write something.

このようなプロジェクトを改善するとしたら、どのようなことができると思いますか？日本語または英語で自由に記述してください。どのようなアイデアでも大丈夫です。(例 翻訳をするためにもっとグループで対面で話す時間が必要だった。最初に二風谷に行き、次にウポポイに行くべきだった, など)短くても良いので、何かコメントを入力してください。

